

い意味など持ち合わせず、顔を合わせたから一応の挨拶をされる方も多いかもかもしれません。

ただそれでも、挨拶を交わすだけで声の大きさやトーンなどで相手に元気があ
るかないかぐらいは読み取れたりもしま
す。もしかすると相手が何かで悩んでい
ることも挨拶を通して察することがで
き、その一言が話を聞くきっかけにもな
り得ます。

また仕事終わりに「今日もおつかれさ
ん」と気軽に声をかけられただけでも、
次の日も頑張ろうという気にもなれま
す。

たった一言であつたとしても挨拶を通
して、人との繋がりを喜べる感覚とい
うのは、いまこの隔離期間が強いられてい
る状況のときこそ大事なものだ改めて
気づかされます。

この冬の季節はさまざまな挨拶が交わ
される時期でもあります。イベント事
でお会いする人にかけるおめでたい挨拶
も、普段の何気ないご近所さんとの挨拶
も大事にかみしめていけたらと思いま
す。

改めまして、本年もどうぞよろしくお
願い致します。

合掌

トロント仏教会

駐在開教使

大内祐真

「祥月法要（日本語法座）」

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

1月9日（日曜日）

時間：午前11時～（英語） 午後1時～日本語

※1月は第二日曜日に祥月法要をお勤めします。

場所：トロント仏教会、ZOOM



ほうおんこう

報恩講

トロント仏教会では法要を対面式とオンライン（ZOOM）で行います。

日時：2021年1月16日（日曜日） 午前11時～（英語と日本語）

場所：トロント仏教会、オンライン（ZOOM）

※英語と日本語の合同法要となります。

報恩講は、浄土真宗の宗祖とされる親鸞の祥月命日の前後に、阿弥陀如来ならびに宗祖親鸞に対する報恩謝徳のために営まれる法要のことです。

今年の報恩講にはスティーブストン寺院よりゲストスピーカーとして生田 Grant 先生をZoomを通してお招きし、勤修いたします。読経後に生田先生より報恩講にちなんだご法話を英語と日本語でいただきますゆえ、どうぞご家族ご友人をお誘いのうえどなた様もご参拝くださいませ。





一月の雲と語れる古箏

みなさま新年明けまして

おめでとうございます。

今月の佛心の題名に使わせていただいたのは、中嶋秀子さんが書かれた俳句です。トロントの一月は、雨や雪や霰が降るため曇り空が多い印象を受けます。ただその曇り空もよく見れば同じ形をした雲はなく、どれもがその日の天候や気温によって姿形を変化させています。そのため雪かきや落ち葉の掃除をしていて、空を見上げると冬の季節の訪れを感じることができます。

中嶋秀子さんは、古箏で掃除をしながら刻々と移り変わるそんな冬の雲と語り合っていたのだと思うと大変興味深い俳句だと感じ、一月の題名にさせていただきます。

さて、一月は雪が降り強風が吹くと一段と冷え込むため、外に出るのが少し億劫になつてしまう季節でもあります。ただ、たとえ億劫であったとしても、コロナ前であれば、お寺の行事で集まって挨拶を交わした日々が何とも有難いものだったとつくづく感じます。

この冬というのは、どの季節よりも多種多様な「挨拶」が交わされる季節だと思えます。例えば、11月だと隣国のThanksgivings Dayがあるので、SNS上でもよくHappy Thanksgivings Dayのメッセージを目にしました。また先月の25日が近づく「Merry Christmas」や「Happy Holiday」という挨拶がよく交わされました。（全ての人がキリスト教徒ではないけれども、一緒に祝日をお祝いしましょう、という意味を込めて「Happy Holiday」と交わすのは、互いの宗教の尊厳を尊重し合うカナダの風土で個人的には好きです。）

そして、新年になりますと「Happy New Year」の挨拶が交わされ、そうこうしているうちに「Happy Valentine's Day」の挨拶がいつの間にか交わされています。このように挨拶は、イベント事やその季節を通しての風習や文化をも教えてくれるときがあります。

その「挨拶」とは、会ったとき、別れるときにおじぎすること。また、そのときのことば、などと国語辞典には説明されています。

しかしこの挨拶とは、もともと仏教用語であると言われています。「挨拶」の「挨」は「お互いの距離を縮めること」、「拶」には「相手に迫る」という意味があるとされています。

禅宗のやり取りから出ている言葉「一挨一拶（いちあいいつさつ）」という言葉がその元です。これは、仏道を歩む師匠がその弟子に声をかけて、その返答をもって修行の度合いをはかっていたということです。

例えば、師匠がある修行を終えた弟子に「中庭はきれいに掃除できたか」と尋ねる。すると弟子は、「とつさに（中庭は自分のこころ）、（掃除は修行）、（きれいにできたか？）」煩惱は取り除けたか？」と解釈する。

その弟子はその問に対して「いまは綺麗ですが、明日には新しい葉が落ちるでしょう」と答える。

言い換えれば、掃除に終わりが無いように、自分自身の修行にも終わりが無い。つまりは、自身にはまだまだ修行が必要だと師に伝えたのです。このようなやりとりが「一挨一拶」すなわち挨拶の元々のかたちだと言われています。

とは言え、私たちの日常生活での挨拶は、「おはよう」や「こんにちは」「さようなら」など一言でやり取りをするのがほとんどだと思います。それは先ほどの問答に比べれば、大して深



年末・年始におもう、

「布施（ふせ）」のころ

BC州で記録的な豪雨により、各地において洪水や土砂災害が起きています。被害にあわれた方達の安全と各地の速やかな復興を願っています。2021年から2022年を迎えるこの時期、BC災害の被害や、各地にてチャリティー活動が活発になる時期です。仏教徒として大切な「布施の行」の実践をしやすい時期ですね。法話の中で、六波羅蜜（ろくはらみつ）という大乘の菩薩（ぼさつ）が修める6種の行業で「布施」の話が聞かれた、読まれた方も多いかと思えます。

仏教には他に「四摂事（しししょうじ）」ということばがあります。あえて、難しく申しますと、菩薩（仏さまになろうとしてその目標に向かって修行する人）が人々を救おう、として行う四つの事、ということばです。もう少し簡単にいえば、その菩薩行にならって、私たちが生きていく上での生

活目標です。この「四摂事（しししょうじ）」を順番に紹介します。

① 「布施摂（ふせししょう）」 相手に財や法を施すこと

② 「愛語摂（あいごししょう）」 相手にやさしいことばで話すこと

③ 「利行摂（りぎょうししょう）」 相手の利益になるようにすること

④ 「同事摂（どうじししょう）」 相手の中に入り、相手の苦楽をともにすること

最後の「同事」というのはあまり聞きなれないかもしれませんが、とても大事なことで現代社会にあっていちばん欠けていることではないか、と感じています。「同事」の反対は「対治（たいじ）」です。あるお医者さんがこのことばに感銘を受けて、ご自身の医学での立場でこの「同事」を説明していました。その先生によると、例えば、末期のガンの方がいるとすれば、「がんばって、あきらめないで」と施療するのが「対治」、そうではなく、「よくがんばったね、もういいよ」と相手の苦しみのなかに自分を入れていく、この方にとっては自分の苦しみをわかってくれる人がある、というのが何よりも苦しみの

の和らぎになります、そのことが「同事」です。相手の中に入り、相手の苦楽をともにすること。「同事」ということ、つまり、相手の中に入り、相手の苦楽をともにする、ということ、とても尊いことです。なかなか、簡単には行えませぬね。

どうか皆様も年末のこの時期、出来る範囲でローカルのチャリテイ

（Foodbank等）へ直接ご寄付を協力いただきますよう、お願い申し上げます。どうかみなさま、よいお年をお迎えください。

合掌

カナダ開教区 総長

青木 龍也

佛心

二〇二二年十一月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会



年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年一昨年に引き続き、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に対応したものとなりました。ここに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々、ライフラインの維持に努めておられる方々に深く敬意と感謝を表します。

この新型コロナウイルス感染症は、私たち一人一人の生活に大きな影響を与えました。それは、同時に社会の問題も浮き彫りにしています。仏教を説かれたお釈迦様は、自分自身の考えにとらわれ、真実をみることのできない私たちの姿を指摘されています。私たちが自分の思い通りに行動したら、社会の中に対立や分断を生むこととなります。

親鸞聖人は、ご和讃に「浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし 虚仮不実のわが身にて 清浄の心もさらになし」とうたわれました。阿弥陀さまのおはたらきによつて知らされる私たちの本当の姿は、縁起や無常、無我というこの世界の真実をそのままに受け入れることができずに悩み苦しむ姿です。親鸞聖人は、そのような私たちに阿弥陀さまのおはたらきが届いていると明らかにされました。いまだに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない世界ですが、阿弥陀さまのおはたらきを聞き、それを依りどころとして日々の生活を過ごしてまいります。

現在の厳しい状況の中でさまざまなきみを重ねながら、今までとは違った方法で浄土真宗のみ教えを広く社会へ伝える取り組みもなされていると聞き、たいへん心強く思います。これからもお寺が皆さまの心の支えとなりますよう、お寺の活動にご理解とご協力を頂きますことをお願い申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

2022年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷光淳